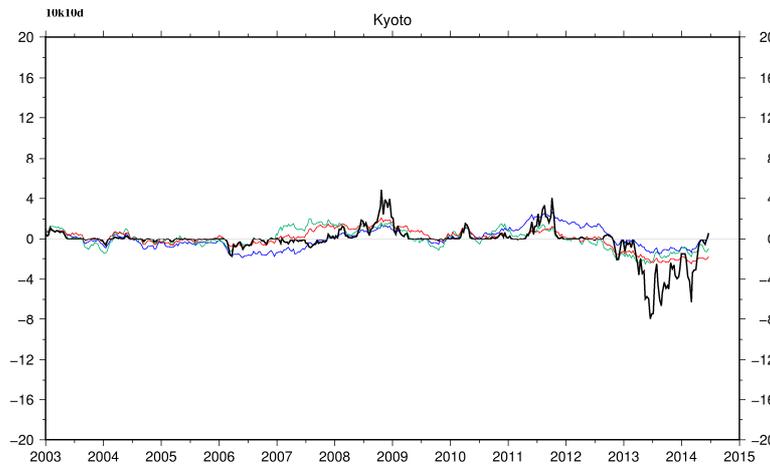


東海・中部・近畿地方の状況

2014年3月5日の段階で、東海・中部・近畿地方、特に京都におけるRTM値の時間変化のグラフをお見せしました。京都では静穏化が消長を繰り返しながら推移している事がわかります。



6月20日までの最新のデータで再計算してみますと、京都ではここ1年ほど続いていた静穏化が現時点では終了している事が確認されました。



京都周辺地域では今後1-2ヶ月は十分注意する必要があるかと考えます。ただ前回のように再び静穏化傾向がみられるようになる可能性もありますので、これをもってすぐに地震が必ず発生するとはお考えにならないようお願い致します（過去の事例と比較して、ゆらぎが大きいため）。このグラフは

[http://www.sems-tokaiuniv.jp/DuMA/Tenkizu\\_Mikata2.pdf](http://www.sems-tokaiuniv.jp/DuMA/Tenkizu_Mikata2.pdf)

の「地下天気図の時系列とは？」というグラフに相当します。この地域全体としては顕著な地震活動の異常は観測されておりません。下は6月20日時点での地下天気図です。

